

氏名 森長俊六

所属 広島大学附属高等学校

連絡先 morisyun[atmark]hiroshima-u.ac.jp

作品タイトル クローゼット錯視

下図（図1）の二等辺三角形の辺ABと辺ACの長さを合わせると線分BDと等しくなるように作図しているのですが、等しく見えないという錯視です。ABとACを合わせた長さの方が長く見えると思います。角BACの大きさもいろいろ試しましたが、鋭角よりは鈍角の方が錯視を感じやすいように思います。角度だけでなく、二等辺三角形でない場合も含めて科学的な視点で検証する必要があります。

一点透視図法を用いて部屋を上から見た状態を描くという美術の課題（図2）において、クローゼットが少し開いた状態を見て発見しました。正しい寸法で描くと、扉を閉じたときに扉が余ってしまう感じがします。この場合、扉の幅を少し狭く（二等辺三角形の等しい二辺を短く）描く方が自然に見えます。

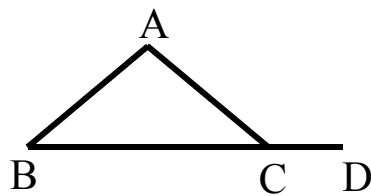


図1

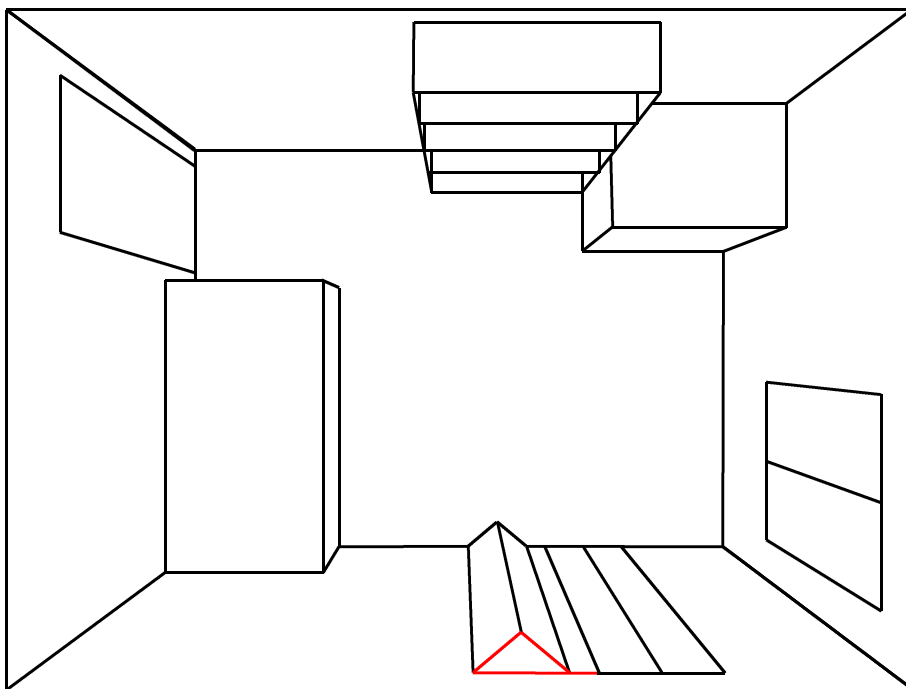


図2